

## 令和3年度 第1回榑引地域振興懇談会 (会議録・要旨)

○日 時：令和3年7月8日(木) 午後2時から午後4時20分まで

○会 場：榑引生涯学習センター 多目的ホール

○出席者：敬称略

(出席委員) 小林 幸一、 釧持 康光、 武田 啓之、 安野 良明、 井上 実、  
上野 由部、 佐藤 治郎作、 清和 ふみ子、 本間 与一、 宮城 妙、  
重松 美鈴、 馬場 合、 菅原 とり子

(欠席委員) 上野 謙、 佐藤 正幸

(市側) 鶴岡市長 皆川 治

企画部部長 伊藤 敦

企画部地域振興課課長 伊藤 慶也、 地域振興課地域振興専門員 熊田 晃久

企画部政策企画課主幹 白幡 有、 政策企画課主事 菅原 拓磨

榑引庁舎支所長 早坂 進

総務企画課長 菅原 正一、 市民福祉課長 前田 郷子、 産業建設課長 熊坂 誠

総務企画課課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査 遠藤 直樹

市民福祉課課長補佐 佐藤 栄一、 産業建設課課長補佐 斎藤 秀一郎

総務企画課総務企画専門員 小野寺 敏明、 総務企画課総務企画専門員 菅原 源太郎

総務企画課嘱託 若生 雅之

### 一 次 第 一

[ 委嘱状交付 ]

1 開 会

2 あいさつ

3 委員・職員紹介(自己紹介)

4 会長・副会長の選出

5 懇 談

(1) 鶴岡市過疎地域持続的発展計画について

(2) 育英奨学金から奨学金返済支援事業への移行について

(3) 榑引地域デマンド交通導入事業の検討状況について

(4) くしびき温泉ゆ〜Townの運営状況について

(5) 広域コミュニティ組織について

(6) その他

6 そ の 他

7 閉 会

.....

### 一 委嘱状交付 一

#### 総務企画課長

本日まで出席予定の方々がそろいましたので、只今から始めさせていただきます。

令和3年度第1回榑引地域振興懇談会の開会に先立ちまして、今年度は、委員更新年となりますことから、委員の皆様方に委嘱状の交付を行います。

代表いたしまして、委員名簿の先頭に記載されております、榑引区長会の小林会長さんに代表して鶴岡市長から交付させていただきます。

## 1 開 会

### 総務企画課長

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。委員の皆様には、ご多忙の中ご出席いただきましてありがとうございます。本日は、委員15名中13名のご出席をいただいております。

ただ今から、令和3年度第1回櫛引地域振興懇談会を開会いたします。

最初に、資料の確認でございますが、事前送付させていただきました資料1～5迄につきまして、本日お忘れの方や資料がない方がおりましたら、事務局まで申し出をお願いいたします。

さらに、当日の配布資料といたしまして、次第と出席者名簿及び鶴岡市地域振興懇談会設置要綱と、本日発行の新型コロナワクチンニュースについても配布させていただきますので、ご確認をお願いいたします。

また、追加資料としまして、「鶴岡市過疎地域持続的発展計画」関連の人口経過推移資料も配布させていただきますので、ご確認をお願いいたします。

それでは、本日は市長が出席しておりますので、鶴岡市長皆川治よりご挨拶を申し上げます。

## 2 あいさつ

### 鶴岡市長

皆様、こんにちは。令和3年度第1回櫛引地域振興懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。先ほど、委員を代表して区長会の小林区長に委嘱状の交付をさせていただきました。委員になられました皆様方におかれましては、日頃から地域振興の為に尽力いただいておりますが、引き続きのご尽力をお願い申し上げる次第でございます。

この春には、県内及び鶴岡市内におきましても、凍霜被害や降雹被害が有り、フルーツタウンの櫛引地域におきましても、厳しい新年度のスタートとなったところであります。これらの被害に対しまして、国や県と協調した支援対策に取り組むと共に、6月の市議会におきまして、凍霜害・雹害緊急事業として、営農継続・果樹の被害農家に対しての補正予算が可決されましたことにより、市独自の緊急支援対策も講じてまいります。

また、コロナワクチンについて、最新号のニュースをお配りしております。鶴岡市におけるワクチン接種の状況ですが、65歳以上につきましては、1回目が7割位、2回目が4割位の方の接種が終了しているところです。さらに、60歳から64歳の方につきまして、予約及び接種が進められている状況です。さらに、59歳以下の方につきましては、お手元にありますニュースに記載されております。鶴岡市には、現在、国より2週間に1回ワクチンが届けられておりますが、報道されておりますように全国的にファイザー製ワクチンの供給がうまくいっていない状況でありまして、鶴岡市においては、当面、8,000回分位は供給されるという状況であります。鶴岡市としては、現在の倍位の供給をいただき、集団接種を実施したいと考えておりますが、現状の供給量を考慮しまして、週4,000回分位の接種を実施する予定であります。

接種の対象者は、ニュースに記載されております優先的な接種の①基礎疾患を有する方 ②教職員の方 ③飲食業・宿泊業に勤務されている方 となっております。8月5日から順次予約受付を開始してまいります。これ以外の方につきましては、ワクチン供給の状況を確認しながら、広報9月号等になると思われますが、市民の方々に周知していきたいと考えているところであります。

本日の懇談会では、鶴岡市過疎地域持続的発展計画について、育英奨学金返済支援事業について、櫛引地域の取り組みとして、デマンド交通導入事業について、くしびき温泉ゆ〜Townの運営状況、広域コミュニティ組織について、ご説明させていただきます。ご参加の皆様からは、日頃から感じていることなど忌憚のないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

### 総務企画課長

ありがとうございました。

それでは、3 委員・職員紹介（自己紹介）に移りたいと思います。

### 3 委員・職員紹介（自己紹介）

#### 4 会長・副会長の選出

##### 総務企画課長

会長・副会長の選出につきましては、鶴岡市地域振興懇談会設置要綱第5条に基づき委員の互選で行うこととなりますが、選出方法などについて委員の皆様方より何かご提案ありますでしょうか。

##### A 委員

事務局に一任します。

##### B 委員

事務局に一任では、問題もあるでしょうから、前任のお二方がおられるので再任という形でお願ひしたいと思います。

##### 総務企画課長

只今、安野委員より会長には、区長会会長の小林さん。同様に、副会長に婦人会会長の清和さんを再任してはどうかという旨のご発言がありました。それをお諮りさせていただいてよろしいでしょうか。

##### （異議なしの声）

それでは、会長に榊引地域区長会会長の小林幸一委員、同様に副会長には榊引地域婦人会会長の清和ふみ子委員、以上のとおり決定させていただきます。

##### （参加委員の拍手にて承認）

それでは、選任されました小林会長、清和副会長より一言ごあいさつをお願いいたします。

##### 会長

前回より引き続き会長を仰せつかりました。見識ある大勢の皆様方から、より多くの意見を発言出来るように進行して参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

##### 副会長

前回より引き続き副会長に選任されました。ありがとうございます。少しでも婦人会の立場から皆様方に何かしら発信出来ればありがたいなと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 5 懇談

##### 総務企画課長

それでは、5 懇談に入らせていただきます。

ここからは、地域振興懇談会設置要綱第6条の規定により、議長を小林会長より務めていただきたいと思ひます。

よろしくお願ひいたします。

##### 会長

それでは、懇談に入りたくと思ひます。

始めに「（1）鶴岡市過疎地域持続的発展計画について」の説明をお願いいたします。

#### （1）鶴岡市過疎地域持続的発展計画について

## 説明・企画部長

【概要】鶴岡市過疎地域持続的発展計画（素案）・・・別添資料No.1  
（上記について、資料に基づきながら説明。）

## 会長

ただいま、「（１）鶴岡市過疎地域持続的発展計画について」説明ありましたが、これらについて、委員の皆様からご発言いただければと思います。

## C 委員

山形県の人口の推移について、以前は130万人位で現在は110万人位と周知していますが、毎年1000人単位で減少している状態です。鶴岡市においても過疎化の取り組みとして、様々な方策を講じてはいるが、現実的に出生率の減少と人の流出により確実に減少し続けている。そのことによる高齢者の不安は、人口減少による人との関わりの薄さ、コミュニケーション不足が心配されている。

説明にあった人口増加への取り組みだけでは、限界があると思われる。行政で高齢者を病院やお店がある所に集めることで、コミュニケーションが取れ、日常的に楽しく健康に過ごせるようにするなど、角度を変えての取り組み方もあると思われる。

以前、小国町で広大な土地に病院や住宅団地をまとめて、高齢者を集める取り組みを行ったと思うが、豪雪地帯でもあり冬などの除雪においては、その住民たちで手助けして行こうとする取り組みであった。そこに住む住民が納得する必要があるが、そのように安心して過ごせるところを目指していく必要もあると思う。最近の楡引地域では、人を見かけるよりも小動物のほうが多いのではと思われ、いろいろ不安がある。

## 会長

ただいまご意見について、ご返答を願います。

## 企画部長

貴重なご意見ありがとうございました。

集落対策の範囲に入ってくるとは思われますが、この計画におきましても、住民主体の地域づくり推進で住み慣れたところで安心して暮らしたいとの考えも多くあります。地域においてビジョンを作成、課題を見つけ、解決に向けて取り組むことが課題と捉えているところです。

他の地域においても集落規模が小さくなり様々な生活機能が停滞する、健康活動増進が出来ない、福祉的なところに不安がある、さらには雪が多くて除雪などが大変だ等、様々な問題がありますが、そういった問題の一つの解決方法として、隣接の集落と協力し合うとか、さらにもう少し広い地域間において、連携・協力する様な仕組みを合わせて考えているところです。

ただ今のご意見で、過疎化した集落を一つの所に集約するというご意見もありましたので、今後検討させていただければと思います。

## 会長

はい、ありがとうございました。他に皆様からございませんか？

## A 委員

過疎として位置付ける地域に関して、温海、朝日、藤島と説明があり、それぞれの地域について計画を作成するとのことですが、旧鶴岡において、もう少し小分けして考えると、今現在の状況で非常に過疎になっているところがあると思うが、そういった地域に対しての対応とかは出来るものなのかどうか。例えば、三瀬や堅苔沢、田川などあると思われるのですが。

## 会長

今のことにに関して、私も勉強不足であります。過疎地域の定義とはどういうものなのか。人口減少が著しい等を含めて説明をお願いしたい。

## 企画部地域振興課長

ただ今のご質問に対しまして、お答えさせていただきたいと思っております。

過疎地域の定義ですが、自治体単位で人口減少率を年度により中期、長期で比較するなど様々で一定の減少率があることと財政力指数というのがあります。こちらは、財政力の低い所かつ人口減少の著しい所などが過疎地域の指定を受けるとなります。そのことから、鶴岡市におきまして、合併を行っていることから、旧市町村単位で見ますと朝日地域と温海地域が該当しております。その他に、面積要件があり、朝日地域と温海地域を合わせますと鶴岡市全体の面積の半分以上ありますことから、鶴岡市全域が過疎地域にみなされることとなります。

先ほどのお話の中に旧鶴岡市の中にもあるのかとのことでありましたが、確かに人口減少が著しかったり、お店が無くなり困ったりしているなどの相談等も徐々に増えてきている状況であります。

みなし過疎の地域以外に全市的に過疎対策を講じて行くものをご理解いただいておりますが、部分的な地域におきましては、別の法律もございまして辺地計画をもって過疎対策にあたっているという地域もございます。小堅地域と田川地域とか様々ございますが、楡引地域もございます。これらのことから、過疎地域を再構築および活性化して行く上でも必要な対策を講じて行くため、有意義な国からの財源が活用できることとなっており、それらを用いて事業を計画し推進しているという状況ですので、ご理解をお願いいたします。

## 会長

はい、ありがとうございます。上野委員よろしいですか？

## B 委員

過疎対策について、鶴岡市においては、振興計画および総合計画に沿って進めて行くとのことで、住民の暮らしの安全と安心の確保ということを進めているとのことですが、これは以前から項目として挙げてきたことではないかと思っております。過疎対策として、楡引地域においての新たな対策として、どういうものが考えられるのか。それから、項目として挙げられてはいるが現実的に進んでいない、難航しているものが何点か見受けられます。今後、過疎債のようなものを活用しながら積極的に事業を推進できるのかお聞きしたい。

## 支所長

基本的には、まちづくり未来事業において、楡引地域の課題に対して対応して行くことと計画しております。特に今回の議題にしております、デマンド交通導入と広域コミュニティ組織についてですが、楡引地域において、広域コミュニティ組織については、皆様からの意見を聞き、取り入れ再構築する。さらに小集落が今後も維持していくことを目指して行きたいと考えております。デマンド交通導入については、過疎債の適用にもなります。また、辺地計画において、楡代地区や宝谷地区における道路整備事業を進めて行きたいと考えているところです。根源となる住民のコミュニティ、こういった問題について絆を強めていくため、まちづくり未来事業におけるこの二つの事業を中心に進めて行きたいと考えておりますので、皆様方からご意見をいただきたいと思います。

## 会長

はい、他にご意見ご質問等はありませんか？

## D 委員

資料（3P）にデジタル技術の活用とあるが、SDGs 未来都市の推進についての説明においてデジタル技術でどのように繋がるかイメージ出来ないのご説明をお願いしたい。

また、SDGs についてですが、全ての人々に対して、ジェンダーや平等もあると思うが、一人も取りこぼさないというのは、デジタルだけではなく、過疎計画全体に関わることと思ひ、勉強会の開催やアナログと違う部分、会話、人と人との繋がりなどが重要だと思いますので、その辺りについて説明をお願いしたい。

## 企画部長

デジタル技術の活用を計画の中でどのように考えているのかというご質問だと思いますが、住民の身近な所から活用したいと考えております。先ほどの説明にもありましたが、市民4000人を対象に今月アンケート調査を行っております。そのアンケートにおいて、市民がどのような分野・種類のサービスを必要としているのか考えて行きたいと思っております。SDGs とデジタル技術についてですが、デジタル端末を使えない、使い慣れていない、持っていない人たちが取り残されないように、ハイブリットのような、デジタルとアナログを組み合わせた活用を考えて行かなければと思っております。SDGs の基本的な考え方が、だれ一人取り残さないということですので、十分配慮しながら進めて行きたいと思っております。

## 会長

はい、ありがとうございました。宮城委員よろしいですか？  
他にご意見ご質問等はありませんか？

## E 委員

デジタル技術の活用については、資料（8P）に記載されていますが、鶴岡市SDGs 未来都市デジタル戦略有識者会議において、KCTの活用なども議論していただければと思ひます。

## 企画部長

ただ今お話いただきましたKCTの活用につきましても、持ち帰りまして担当の方と相談してまいります。

## 支所長

KCTについて、お礼なのですが、ユーチューブも配信できるようにと市民からの投稿がありましたことから対応した所です。この様な事から、ICT技術を活用出来たことに感謝申し上げます。

## F 委員

今回、市長さんが来席されていますので、せっくなので質問させていただきます。

過疎政策について、自分が住んでいる地域だけではないのですが、結婚していない方が相当多くあります。それから、一人暮らしの方も地区の中に随分居ります。さらに、地区の中に空き家が多く有ります。さらに、鶴岡駅について、乗り降りする方が昔に比べると半分以下と感じられます。それだけ人口の流れが良くないことが現実的に表れていると思ひます。自分の周りを見るだけでも感じられる事から、鶴岡市全体では、もっと感じられるのではないかと思ひます。これ等の事から過疎化に繋がっていると思ひますので、鶴岡市長としての考えを改めてお聞きしたいと思ひます。

## 鶴岡市長

市町村行政の範囲が大変幅広くあることが特徴としてあります。その中において、SDGs

においても、非常に幅の広い概念となっております。鶴岡市で取り組んでいるものの中には、ややもすると、スローガンだけで終わってしまうのではないかと危惧している項目もあると思われます。

その中で、17の目標に対し、一つ一つ具体論を提示して対応していくことも必要であります、さらにそれぞれの項目を連携させて取り組むことが大切と思っています。

鶴岡市全体で考えられるのが、若い人が地元に残らない、他県へ転出してしまおうといった事です。要因として、色々ありますが大きな要因は職場・仕事が挙げられます。そのことから鶴岡市では、総合計画の中に産業強化・産業振興を柱に掲げております。その中の大きな産業は、製造業・特に電子関係が非常に強いことから、電子関係の新しい産業団地を作ろうと県と進めているところです。

鶴岡市の製造業出荷額は、年3,800億円位ですが、東根市では、年5,000億円であることから、鶴岡市のポテンシャルからすれば、東根市と同様の規模を目指し、拡大することが出来るとして進めているところです。その様なことから、大山にあります工業団地は、長年売れないと言われてきておりましたが、現在は売れておまして、残り僅かな状態です。

鶴岡市は、1次・2次・3次産業と幅が広く、櫛引地域におきましては、果樹や農業に力を入れており、強化も必要です。近年の稼ぎ頭は、園芸であり、櫛引にキュウリの大規模園芸団地を整備しております。これには、国・県からの補助金と、市とJAが連携しており、最新の画像選別機など取り入れて、キュウリの産地形成を目指して取り組んでおります。農業における産出額について、現在年312億円位ですが、400億円まで目指そうとしているのが鶴岡市の総合計画の目標となっております。

鶴岡市の課題として、産業・製造・農業・観光などが若い人たちの地元定着・Iターンにとって大変重要なことであります。もう一つ、鶴岡市の魅力として、SONY・TDK・スタンレーさんなどの大企業の製造業だけでなく、地元根付いた文化や伝統があります。櫛引地域には、黒川能、しな織、宝谷そばなど素晴らしい物があり、きめ細やかな地域対策を推進して行く必要があります。それらを地域住民の方々と担っているのが櫛引庁舎です。

公共交通が無い中でどうやって住民の移動手段をどのように確保していくか。スローガンだけを唱えるだけでは計画は進まない。地域の実情を知り、理解している人たちとの話し合いを行わないとデマンド交通による最適なルートや最適な事業者との取り組みが進まないといったところです。ですから、地域に対してのきめ細やかな対応としては庁舎で行い、このような地域振興懇談会を開催するなどが必要と思われます。

先ほどの質問にありました結婚する人が増えないとのことにつきまして、これは大変な問題であり様々な取り組みは行っております、また、結婚後の支援などについても、市において取り組んでいます、改善していない現状です。現在のコロナ禍の状況においても、過密都市から地方の良さを見直されている訳ですから、櫛引地域におきましても結婚者が増え、子供が生まれ、地元で生活をして行くことに繋がるように、産業の大きな取り組みと地域のきめ細やかな取り組みをあわせて進めて行く必要があると思います。

空き家についても大変な課題でありまして、鶴岡市の危険空き家対策において堅苔沢地区の雷屋ホテルを解体・撤去したところですが、櫛引地域の中田地区におきまして、建設廃材が不法に放置してあるということで、地区住民との話し合いなども行った経緯があります。具体的に着目して、市で対応する制度はいくつかありますが、環境課と連絡を取り合うことで具体的な取り組みを行う必要がありますし、実際行っている地域もあります。ただし、地区住民の協力が必要となりますことから、どのように地区住民からの協力を促すのかの取り組みが重要となります。

地域づくりにおけるSDGs推進については、総論でなく各論に落とし込んで行くことが大事だと思っておりますので、この様な機会において、具体的な懸案事項の解決の為、ご意見がございましたらお聞かせ願ひ、持ち帰り検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

## 会長

はい、ありがとうございました。時間も相当経過しておりますことから（１）については、まだご意見等がございますでしょうが、ひとまず終わらせていただきます。

引き続きまして「（２）育英奨学金から奨学金返済支援事業への移行について」の説明をお願いいたします。

### （２）育英奨学金から奨学金返済支援事業への移行について

#### 説明・企画部政策企画課主幹

つるおかエール奨学金返済支援事業 つるおかエール・・・別添資料No.2

（上記について、資料に基づきながら説明。）

## 会長

はい、ありがとうございました。ただ今の説明につきましてご質問ご意見はございますか？

## B 委員

この事業に対して大変興味を持っていました。制度の効果は大いに期待出来ますが、この制度をもっと使いやすい様には出来ないでしょうか。支援金額について、月 42,000 円より金額を上げるなど出来ないものか。また、この制度の周知について、残念ながらされていない。以上のことについて検討されているのかお聞きしたい。

## 会長

ただいまご質問について、ご返答を願います。

## 企画課主幹

奨学金の金額を月額 42,000 円と設定していることについて、奨学金の平均的な借り受け額を考慮し、また鶴岡から県外に転出した際に係るアパート代と光熱水費代などの掛かり増し分を基に算出しまして、県事業に市の支援金額を上乗せした金額としております。

周知について、市HPと市広報に掲載、また、個別の周知としまして、年度末に実施しました食の応援人にご応募いただきました学生の皆様に周知しているところです。来年度の周知について、今後さらに検討して行く考えであります。

## 会長

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。他にございませんか？

## G 委員

令和3年6月に募集を行っているとのことですが、その結果についてお聞きしたい。

## 企画課主幹

1か月の募集期間を設けまして、90名の方からご応募いただいております。

## 会長

90名の応募人数について、予想以上だったのか、或いは、もっと応募してもらいたかったのか。先ほどの説明において、支援対象者数を見込みで52名とありましたが、応募された中には、支援事業から漏れる方も出てくると理解して良いのかお聞きしたい。

## 企画課主幹

見込んでいた応募人数より予想以上に多くの応募があったことから、想定しました人数について、少し甘かったと反省しているところです。

県と連携して実施している事業であることから、県におきまして、どの程度の人数を支援出来るか市町村ごとに支援数を割り振っております。そのことから、応募状況により市町村の支援対象者数に余裕が出た場合、鶴岡市の支援対象者数を増やすことに期待しているところであり、今後の今年度負担を考慮しまして、対応して行きたいと考えております。

## 会長

はい、ありがとうございました。ほかに何かありますか。

引き続きまして「(3) 櫛引地域デマンド交通導入事業の検討状況について」の説明をお願いいたします。

### (3) 櫛引地域デマンド交通導入事業の検討状況について

説明・櫛引庁舎総務企画課総務企画専門員

櫛引地域デマンド交通導入事業の検討状況について・・・別添資料No.3

(上記について、資料に基づきながら説明。)

## 会長

はい、櫛引地域デマンド交通について、説明していただきましたが、ご質問等ございますか？

これまでの経過において、令和元年に東北公益文化大学による運行調査は、櫛引地域全体を対象に実施しましたが、令和2年度には、各集落に区長を介して東地区の調査に変更しております。その結果について、今回、説明があったところです。西地区の方々は、なかなか実感がないのか、区長会においても関心を示さなかったように感じられたところです。元々は、路線バスの松根線が1便減便されたことと山添高校の廃校などを含めまして、このような事業計画を行っている状況であります。

## H 委員

櫛引地域デマンド交通案には、自宅と目的地の往復についての対応する目的となっているのに、料金設定について、なぜ片道設定となっているのでしょうか。アンケート実施において記載のあった、櫛代地区の方からの往復料金も設けて欲しいとの意見がありますが、このことについては、考えていないということなのでしょうか。

## 会長

ただいまご質問について、ご返答を願います。

## 総務企画専門員

原案としまして、往復でご利用予定の場合は、片道×2の料金で実証実験を進めまして、その過程におきまして、往復料金についても検討して行きたいと考えております。

## 会長

はい、よろしいですか。他にご意見等ございませんか？

## A 委員

同じ様な質問ですが、目的地に来て、その後、自宅に帰るわけですが、目的地がスーパーやお医

者では、帰りの時間が違ってきます。その時の往復料金や帰りの車の手配や時間などは、どのようになるのかが不明ですのでご説明をお願いします。

### 総務企画専門員

デマンド交通の運行においては、前日までに予約を行っていただく事になります。予約については、往復となりますので、目的地と帰りについて予約が必要となります。

### 支所長

補足させていただきますが、デマンド交通について、基本予約制です。資料（6 P）に記載の時間にて運行を予定しております。往復の便が多くあればそちらを利用できますし、利用者が無い場合などには運行時刻が早まることもあり、帰りの便として利用出来ない事も考えられます。

他の地域の例ですが、便が少ない所では帰りの便を利用出来ずに帰りはタクシーを利用して帰るという事も聞いております。その様な事から、これはまだ原案でございますが、こちらは、時間を定めた定時型でありまして、運行時間を利用者のニーズに沿って運行するように出来ないかということについても検討中であります。デマンド交通とは、ある程度決まった時間で運行しており、それをご利用していただくというのが基本の考え方でありましてことをご理解いただきたいと思います。

### 会長

楡引地域では、これからデマンド交通を運行しようと計画しておりますが、先行して、藤島地域や羽黒地域では、すでに実施しております。それらを参考にして、良い所を取り入れ、楡引地域で実施して行けたら良いと思っております。

7月7日の山形新聞に国交省よりの地域交通優良団体として、南陽市の定額タクシーサービス「おきタク」について、記載されておりました。それらのことも含めて、先行事例・営業事例等を参考に取り入れ、楡引地域デマンド交通をより良いものにしていただければと思います。本所や楡引庁舎担当者においても、この「おきタク」については、色々と勉強しているとは思いますが、これらについても素材に取り上げていただき、計画を進めていただければと思います。

### 支所長

現在、各市町村におきましては、南陽市の定額タクシーサービス「おきタク」について、非常に注目されておまして、楡引庁舎におきましても本所と一緒に研究しているところであります。

まだ、ご存じない方もおられると思いますので簡単にご説明いたします。内容は、デマンド交通とタクシーの中間に位置するものとお考え下さい。こちら、予約制であり、事前に予約しますが、目的地は決められております。目的地については、デマンド交通と同じで、医療機関・公共機関・買い物の施設となっており、行き先は限定されていますが、タクシーと同様に何日の何時まで自宅に迎えに来てくれるシステムとなっております。「おきタク」について、結果報告書を庁舎でも入手しておまして、結果内容として非常に利用頻度が高い、また、行政の市民に対する補助金も多くないとの事で、楡引地域に当てはめた場合、どの様になるのかをシュミレーションしたいと思っております。鶴岡市の他地域で先行しているデマンド交通もあることから、それらを総合的に検証して、楡引デマンド交通を実施するにあたり、地域住民の皆様からご利用していただける仕組みを考えたいと思っております。

### 企画部地域振興課長

地域公共交通を担当しているのが地域振興課でありますので、鶴岡市全体的な取り組みについて紹介いたします。交通計画の基本的なところは、通学に利用する学生が多いことから、幹線の路線バスについては、維持して行かなければなりません。楡引地域に当てはめると、落合線と松根線

がございます。近年、利用客の減少により地域によっては、路線バスの運行を維持出来ない事から、他の方法で取り組んでいるのが、藤島の東栄地区のデマンド交通で予約制の乗り合いタクシーであります。そして、最近実証を開始しているのが、同じ藤島の長沼・八栄島地区であります。

さらに、昨年は温海地域におきまして、乗り合いタクシーを開始しております。温海地域におきましては、4路線有りまして、形態が2種類ございます。1つが、定時定路線。いわゆる、バスと同じように運行しているタイプのタクシーです。もう1つは、需要が少ないことから予約制で運行する、定路線のタクシーであります。

それぞれ地域の事情が違いますので、それぞれの地域に見合った交通手段として導入しているところであります。

料金につきまして、同じような路線であれば同じような水準で調整しております。また、問題点として、委託業務を依頼する交通事業者の高齢化と事業者の減少という現実があります。こんな事をやれたらいいなと思っても交通事業者の高齢化により対応出来ない事もありますので、そういったところを総合的に考えながら検討してまいりたいと思います。

## 会長

はい、ありがとうございます。これにつきましては、まだ改善が必要と思われるので、ご意見がありましたら、お申し出いただきたいと思っております。

## F 委員

先ほどの説明において、高齢者の運転免許証の返納者が多くいるとありました。また、警察からも、早く運転免許証を返納した方がよいと言われていた方もおります。その中で、運転免許証を返納する方は、どの様な方かと言いますと、高齢者の運転免許証の書き換え時に運転能力テストがあり、合格しないと更新できないシステムになっている。運転能力テストに合格しないのは、どの様な方かという、認知症が疑われる人たちが、運転免許証を返納せざる得ない状況にあります。その様な人たちが、このデマンド交通を利用して、帰ってこられなくなったら困るので、その様な人たちをどの様に利用出来る様にするかについて、今後の検討課題に加えてもらえたらと思います。

## 支所長

デマンド交通を考える段階で、どの様な人たちが利用する対象者となるのかも考慮しました。例えば、認知症の方とか、障害をお持ちの方とか様々いらっしゃる中で、福祉における有償サービスや、障害者にはタクシー補助券などあり、それらと比較しながらデマンド交通も共存して行けるように思っていますので、今後も、その様なことにも配慮しながら検討してまいります。

貴重なご意見ありがとうございます。

## I 委員

デマンド交通について、宝谷地区の集会時に区長さんがこれについての内容を説明されました。区長さんの説明においても内容をしっかり理解されていないようで、地区住民にも浸透されていない感じでした。説明会も1回だけだったので、アンケートの回答にある利用したい方の人数が少ない結果となって、内容を捉えていない方が多くいると思われまます。

宝谷地区は、世帯数が少ない。さらに、高齢者率も高いといった現状で、集会時の説明においてデマンド交通は、今後、宝谷地区には必要な事業だと、区長さんもアピールしていて、集会参加者も必要なものと認識していたようだった。しかし、現在は、家族の中にだれか運転できる方がいるとまだいいよと言う人がいるようで、アンケート結果の様に利用者が少ない結果となったのかなと思います。自分自身も宝谷地区に住み続けることで、今後、絶対必要となってくると思うので、ありがたいことだなと思われました。

## 会長

はい、ありがとうございました。他にございませんか。

なければ、「(4) くしびき温泉ゆ〜Town の運営状況について」の説明をお願い致します。

### (4) くしびき温泉ゆ〜Town の運営状況について

説明・櫛引庁舎市民福祉課長

くしびき温泉ゆ〜Town の運営状況について・・・別添資料No.4

(上記について、資料に基づきながら説明。)

## 会長

はい、ありがとうございました。ただ今の説明につきましてご質問ご意見はございますか？

ゆ〜Town のチラシ等については、毎月の区長配布にて対応しております。また、令和2年度地域振興懇談会での話題としても取り上げております。今現在も営業して頑張っているという理解で、皆様からもご協力いただくこととして、ご意見ご質問等がなければこの件に関しては終了してよろしいですか。

では、「(5) 広域コミュニティ組織について」の説明をお願いいたします。

### (5) 広域コミュニティ組織について

説明・櫛引庁舎総務企画課総務企画専門員

広域コミュニティ組織について・・・別添資料No.5

(上記について、資料に基づきながら説明。)

## 会長

はい、ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、なかなかわかりにくい内容で、何から始めるか定かではありませんし、理解するのなかなか難しいと思いますが、これらの事に対して、ご質問ご意見はございますか？

## D 委員

令和5年度を目標に防災分野の課題である行政のカウンtpartnerとなる広域組織を作るとの事ですが、現在の所、想定はされているのか。また、令和4年度まで災害が発生した際の対処方法や暫定案などあればお教えて頂きたい。

### 総務企画専門員

ただ今の質問に対して、組織規模としまして、小学校単位での広域的自主防災組織が必要と考えております。それまでの体制としまして、避難指示を出さなければならない地区には、個別に当該地区の区長さん宅に櫛引庁舎から連絡を行ってお願いする現状でして、広域的コミュニティが出来ましたら、広域的自主防災組織の代表者に連絡、協力を呼びかけて避難所の開設運営などの流れを行っていただく事になります。今現在のところ、実際に災害が起こった時、櫛引庁舎においての対処方法については課題となっており、具体的に避難所の開設は庁舎で行わないといけないが庁舎において、全ての対応が出来るのかというところが心配されているところです。

## 支所長

補足させていただきます。令和5年度を目標に想定することに関して、現在、櫛引地域の指定避難所としてありますのが、小学校単位の3つと櫛引生涯学習センター、櫛引中学校であります。その単位で避難所が開設される事を想定してしまして、その単位での防災組織が必要と考えておりま

す。実際、災害が発生した場合、避難所の開設は今言った場所になる訳ですが、これを行政だけでは運営、維持は出来ない訳でして、地域住民の方と一緒に行政が避難所を開設する事になると思います。現在、榑引地域において、避難所単位の防災組織がないことから、今現在災害が発生すると、たぶん訓練もしていないし、住民にも認識がないことから、行政が駆けつけ、周辺住民に協力をお願いしながら一緒に運営する事となります。従いまして、令和5年度までに、今言った避難所単位を想定し、榑引地域の防災訓練や防災組織を作っていくという原案と考えておりますので、その様な考えについての提案をしていきたいと思っております。

#### D 委員

現在、防災訓練は地区ごとにしか行っていないので、住民としては不安があります。防災組織を作る必要性などを認識してもらう為、住民に解りやすく説明を行っていただきたいと思えます。

#### 支所長

はい、全くその通りだと我々も思っております。今、榑引地域では、地区単位で防災訓練、防災活動を行っておりますが、今後、防災組織が立ち上がりましたら、その単位での訓練、防災活動も必要となってきますので、そのことについては、丁寧に説明してまいります。

#### A 委員

広域コミュニティ組織がないと防災活動や防災に関する動きが出来ないとのことですが、実際そうなのか疑問です。例えば、この組織がない今災害が起きたときに、行政から各地区の区長さんに連絡が行くと思うのです。そこを活用するのが一番大きいのではないと思うのです。各地区に区長さんが居り、役員さんも居る訳ですので、その地区では、現在の組織で動けると思うのです。

今、広域コミュニティ組織がないから災害時に動けないと言うのであれば、現在、地区単位にある組織をどのように活用するかも押さえておく必要があると思えます。災害発生時、現在、地区単位にある組織をもっと活用する方法も進めて行く事が必要と思うのです。

#### 支所長

こちらの説明が不足しておりました。これまでの説明で防災上必要だから広域コミュニティ組織を3つ作るという訳でなく、防災分野において、必要な拠点を3つ作るということです。広域コミュニティ組織は、今までの提案どおり原則1つで良いと思えます。ただ、防災分野において、必要な拠点を3つ作ること、例えば小学校を拠点とすることで、災害時の機動性が良くなると考えられます。その事から、広域コミュニティ組織を3つ作るという訳でない事に対して説明不足でした。

実際、上野委員さんのお話のとおり、各地区の防災組織もしっかりしております。その一つ一つがしっかり機能すれば対応出来る事もその通りだと思います。ただ、災害時に避難所を開設する際、だれが統括して開設するのか、学校の鍵を開ける人は決まっていると思うが、運営は、誰が行うかなど、様々な問題が必ず出てくると思えます。通常ならば、避難所単位の防災組織があると、実践においては非常に役立ちます、広域でも防災について取り決める組織があると、尚良いのではないかと考えておりますので、各地区の防災組織をどのように組み合わせて行くかなどを含めて検討させていただければと思えます。

#### C 委員

広域コミュニティ組織について、議論のテーマが良く理解出来ないのですが、榑引地域の防災体制のどこが良くないのか、防災体制を変えるとどこが良くなるのかが理解出来なかったのですが、今後、広域コミュニティ組織について、色々と議論するとの事で、今回説明は結構ですが、昨年、北海道の真備町で災害が発生した後、榑引においても水害の恐れがあるとの広報が流れることがあ

ったが、これまでさほど災害がなかったこともあり、2地区だけだったが避難した経緯があります。今後、災害が起きた際の防災組織の在り方について、さらに検討が必要と思いますので、色々の角度からの検討をお願いしたい。

### 支所長

今後、櫛引地域全域に関わるような災害が発生した場合、他の地区において、現状では、住民の皆さんは、それぞれの地域のコミセンに避難すると思います。鶴岡市の場合、他の地区もそうですが避難所単位で避難所開設の準備が行われています。食料品の搬送や救助活動においても災害指定避難所単位で行われます。その様な事が鶴岡市全域で発生した場合には、救助する側も大変な事になります。ケースバイケースですが、大規模な災害を想定した場合、避難所単位の避難となるのかと思いますので、うまく円滑に住民を救助出来る様にする為には、広域的な防災組織が必要と思われるので、ただ今のご意見も含め、検討してまいります。

### 会長

先ほど区長会でも、これについて議論して行くとお話しさせていただきました。私自身も災害に対しては、非常に心配しているところです。災害の種類について、地震なのか、洪水なのか、分かりませんが広域的なものです。昨年、西片屋地区におきまして、防災訓練を行っておりますが、実際に災害が起こった場合は、訓練で想定した以上の事が起きることが懸念されます。これからは、集落完結型の防災では追い付かないと思われまので、支所長が説明された避難所毎の体制がなければならぬ、その様になってもらわないと困ると思っております。今後も、色々と議論を重ねて参りますので、こういった機会に各々勉強してきた事等を出して議論出来れば良いのかなあと 생각합니다。櫛引地域は、昔から21の集落から1コミュニティというのがあって、コミュニティの話をするのがタブーとされていた雰囲気が続いているところがありますが、私自身は、この様な災害対応から議論に入れば、少しでも穏やかに話し合うことが出来るのではないかと考えており、勉強会を立ち上げるという事ですので、その様な機会がまたありましたら皆さんにお知らせしますので、ご理解をよろしく申し上げます。

### A 委員

広域コミュニティ組織を作ることを決して否定している訳ではありませんが、広域コミュニティ組織が出来上がらないと動けないでは困る訳です。今、こうしている間にでも災害が起こるかもしれない、その様な事を考えたときに、どこを動かすのかを先ず捉えておくことが必要だと思います。その様なことから、櫛引地域の場合は、各地区の防災組織だと思います。その事について、各地区の区長さんをトップにしながら、防災組織を運用して行く事は、そんなに難しくはないと思う。避難所も、広域的な所となるとやはり学校となる。それから、公的な機関で集まれるところと考えるとそんな難しい事ではない。さらに、各地区においては、公民館を持っている。その、公民館の活用が必ず出てくると思います。災害がどういったものかでも違ってくると思うが、例えば、地震の様に地域全域に被害が出る様であれば、広域コミュニティ組織が絶対必要だと思うが、そこまででない災害においても、防災組織を先ず作っておかないといけないと思います。その上で、広域コミュニティ組織についても重ねて議論することが良いと思います。広域コミュニティ組織については、区長会においても議論を行う事をお願いします。

### 支所長

まさしくご指摘された通りだと思います。ご意見を参考に、今後、進めて参りたいと思います。

広域コミュニティ組織作りに関して、私より詳しく防災活動を行っている、清和副会長さんよりご助言いただければと思います。

## 副会長

昨年より防災アドバイザーに就任しており、各施設における防災の備えについて、視察する機会がありました。櫛引地域の各避難所になっている公民館に関しても視察しましたが、どの公民館においても、防災の備えがほとんど揃っていない状態でありました。

鶴岡市の各コミュニティは、災害時用のダンボールベッドなど災害に備えて更新していますが、櫛引地域は、残念ながらそういうところがないと感じました。また、昨日も防災講演会があり、参加した各地区自治会長さんや自主防災役員に女性の役員がいませんでした。参加者のほとんどが男性。これでは、実際災害が発生した時の避難所設営は、上手く機能しないと感じましたし、もっと自治組織に女性役員を入れるべきだと感じました。これからの自治組織の中には、女性役員を入れることを検討してもらったらいいいのではないかと思います。

## 会長

ということですので、今後、検討して頂けたらと思います。災害時の避難場所は、どこなのか、各地区の住民に対して公民館は、自主避難場所とはならない事、各小学校や中学校に行かなければならないことを区長会でも広げて行く必要があると思いますので、よろしく願いいたします。

これで、次第の（５）まで終わりましたが、どうしても、このことについて、言っておかないといけない、また、これからの地域振興懇談会においてのご意見等がありましたら、お聞かせ願えたらありがたいと思いますがいかがですか。

では、事務局から「6 その他」についてお願いいたします。

### （6）その他について

#### 総務企画課長

地域振興懇談会について、年2回の開催を予定しております。次回の地域振興懇談会については、来年2月下旬位に開催を設定させて頂きたいと思っております。その際は、改めてご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします

## 会長

これまで（1）～（6）まで進めてまいりましたが、時間が経過した割には皆様方からの意見を聞く機会が少なかったかなと思います。また、まとまりのない話となったかと思いますが、全て司会・進行を任された私の責任でございますので、次回からは、少し勉強しながら努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

本日は、長時間にわたりご協力頂きまして、ありがとうございました。

事務局に進行をお返しいたします。

#### 総務企画課長

小林会長、議長としての進行ありがとうございました。

## 6 その他

なし

## 7 閉会

#### 総務企画課長

以上をもちまして、今年度第1回の櫛引地域振興懇談会を閉会とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。